

令和2年12月18日

白老町議会
議長 松田謙吾様

総務文教常任委員会
委員長 吉谷一孝

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告します。

記

- 1 調査事項 (1) 常任委員会
① 白老町のスポーツ振興について
(2) 分科会
① スポーツ活動団体との懇談
- 2 調査の方法 (1) 事務調査
- 3 調査日程 (1) 常任委員会 令和2年10月8日(木)
令和2年11月13日(金)
令和2年12月8日(火)
(2) 分科会 令和2年10月26日(月)
- 4 出席委員
委員長 吉谷一孝 副委員長 佐藤雄大
委員 前田博之 委員 大淵紀夫
委員 氏家裕治 委員 小西秀延
- 5 説明のために出席した者の職・氏名
生涯学習課長 池田誠 生涯学習課主幹 川崎真也
生涯学習課主査 葉廣照美

6 職務のために出席した者の職・氏名
議会事務局長 高橋裕明 主 査 小野寺修男

7 団体からの出席者

(1) 分科会

白老町体育協会加盟スポーツ活動団体との懇談

白老町軟式野球連盟 事務局長 石川 智 様 ほか 16 名

8 調査結果

本委員会は、白老町のスポーツ振興について、担当課の説明及びスポーツ団体との懇談を行い、所管事務調査を終了したので、その内容を次のとおり報告する。

(1) 総務文教常任委員会

【現状と課題】

① 人口減少と少子高齢化の影響と展望

スポーツ人口や団体数、施設の利用状況に大きな影響を与えているのは、年少人口の急激な減少によるスポーツ参加機会や種目選択の減少である。また、高齢人口の急増によるスポーツを行う場所や機会の確保など、その対策や健康スポーツの在り方などを明確にする必要がある。

② 施設環境の要望と人材の掘り起こし

スポーツ活動団体に対してアンケート調査及び懇談を開催した結果、施設環境については、多くは公共施設を利用しており、活動に大きな支障はないが、老朽化や使用時間等についての意見が出された。特に意見が多かったのは、多目的利用されているはまなすスポーツセンター、老朽化が著しい桜ヶ丘運動公園テニスコートと町民温水プールの改修要望であった。

また、各団体において競技者や指導者の減少、役員の成り手不足などが課題として出され、人材を掘り起こしていく必要がある。

③ 財源確保の状況と展望

各団体からは、人員や活動の減少、補助金の削減などによる運営費の資金不足の状況が出されたほか、今後のスポーツ振興を促す財源確保を図るための体制と方策の必要性が課題として出された。

【委員会の意見】

① スポーツ振興計画の策定と推進（提言1）

将来の方向性と課題を解決するため、行政と民間、競技者、指導者等が検討を行い、実効性の高いスポーツ振興計画を策定する。

ア. スポーツ振興計画の必要性

現状と課題からスポーツ振興を図るためには、その意義と方向性を明確にして段階的に取り組む計画が必要である。

内容としては、スポーツの分類として、i. 健康スポーツの普及・振興 ii. 競技スポーツの普及・振興 iii. 学校スポーツの対策を網羅し、取り組むための体制や財源の確保策を定め、関係者を含む多くの町民や有識者による検討体制、さらには近隣自治体との連携も考慮した計画策定が望まれる。

イ. 体制・人材の協力・連携を図る活動環境

策定した計画を進めるために、その調整役となる組織体制や財源、人材の活用を図りながら、推進状況の点検・評価を行い、改善検討する着実な推進管理が求められる。

体制の確立は、民間と行政の双方で必要があり、民間の指導者、競技者をはじめとする人材の活用と企業などの参画による振興策や資金力の活用・協力体制をつくるとともに、行政や関係団体が連携して、体育協会の体制強化や財源確保を図る活動環境づくりに取り組むことが求められる。

ウ. 計画の策定・推進

計画策定や活動環境の必要性に基づき、スポーツ振興に係る基盤や施設・設備の整備計画（ハード面）と人材や組織の体制整備・財源確保・活動方法の改善計画（ソフト面）を期間と経費、体制、手段等を明確にした実効性の高い振興計画を策定して着実に推進することが求められる。

② 民間活力の導入と財源確保（提言2）

安定的なスポーツ振興を進めるため、企業誘致など民間活力の導入と財源確保策を確立し、施設整備の推進と人材育成の促進を図る。

ア. 民間活力導入の誘致活動、推進体制

民間活力を導入するための行政活動について、そのアプローチの方法と体制づくりが求められる。民間による運営、資金調達、管理手法などを拡充するための行政との調整や支援の在り方を検討し、民間の参画を促す必要があることから、行政体制や人事配置を整える必要がある。

また、行政方針として、民間活力の導入や協力体制の構築を進める姿勢を確立することが重要であり、行政主体の振興方策だけではなく、企業誘致の推進や民間活動との連携、協力体制の構築を図ることが有効である。

イ. 資金調達の方策と運営体制の改編

行政主導による施設配置や管理運営を進めるには、組織体制や財源確保に限界があり資金調達や運営体制に民間活力を導入していくことが必要である。

推進体制においても体育協会中心で進めるのか、(仮称)文化体育協会など統合を含めた組織改編の長所・短所を明確にする検討が必要となっ

ている。そのことによって、スポーツ・文化の連携や協力体制の再構築や振興策にもつながる。また、行政と協会及び企業との連携や参入の方策、それぞれの長所の活用についても検討が必要である。

③ まちづくりとスポーツ振興の連携（提言3）

スポーツ振興とまちづくりを連携し、見るスポーツ・参加するスポーツ・育てるスポーツなど多様な参加機会を通して、白老町のスポーツ文化を醸成する。

ア．民間交流の活発化とスポーツを活かした経済活動

これからのスポーツ振興には、健康志向によるスポーツ機会の拡充や大会・イベント等の集客による民間との交流や経済活動との連携、資金獲得を伴う魅力の向上、広域によるPR・参加によるスポーツを活かした経済活動の導入を図ることも有効である。そのことによって、スポーツの普及、機会や参加の拡大を図ることが期待できる。

イ．観客・競技者・指導者によるスポーツ文化の醸成

本町は大昭和製紙北海道野球部の全国制覇による機運醸成やプロスポーツの選手招聘など、魅力的で話題性の高い機会によってスポーツ都市を築いてきた経緯から、さらに、見るスポーツ、参加するスポーツ、育てるスポーツなど多様な参加機会を通して、まちに楽しみや活気あるスポーツ文化を醸成していくよう努めるべきである。

ウ．公園や文化施設等を生かした社会教育体制とまちづくりの連携

憩いの場である公園や文化活動施設などで健康体操や軽スポーツに活用すること及びスポーツ観戦や講演会を開催するなど、社会教育やまちづくり人材の育成に生かすべきである。また、そのような事業を通してスポーツだけに限定することのない総合的なひとづくり事業を進めるべきである。

なお、この調査結果に基づく総務文教常任委員会の提言は、町長及び教育長に対して提出する。

（2）総務文教分科会

総務文教分科会は、白老町体育協会加盟団体単位協会及びスポーツ少年団の15団体17人との懇談を実施した。なお、その内容については、別紙「活動報告書」のとおりである。

総務文教分科会の活動報告書

令和2年11月13日

総務文教常任委員会

委員長 吉谷 一孝 様

総務文教分科会

主査 佐藤 雄大

本分科会は、委員会の広聴活動として下記団体との意見交換を終了したので、以下のとおり報告いたします。

団体名： 体育協会加盟スポーツ活動団体 (参加者 17 名)

日程・会場	令和2年10月26日、会場：白老町議会議事堂 午後6時00分～午後7時40分
懇談テーマ	白老町のスポーツ振興について
出席委員名	主査 佐藤 雄大 副主査 吉谷 一孝 委員 前田 博之 委員 大淵 紀夫 委員 氏家 裕治 委員 小西 秀延
意見・要望事項	下記のとおり
活動報告 (処理・対応含)	<p>白老町体育協会加盟団体単位協会及びスポーツ少年団との懇談は、37団体中29団体(78%)から出欠の報告を受け、15団体(40%)17名の出席により開催した。</p> <p>○活動の現状と課題</p> <p>各団体は、主に公共施設を利用して選手の育成、練習、大会の運営などを行なっているが、少子高齢化の進行で会員の減少、指導者や運営の担い手不足、また、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により活動が縮小している。</p> <p>今後は広域化や連携による人材の確保、施設・設備の維持・有効活用など、スポーツ活動の持続・発展に向けた課題が多く出された。</p> <p>○施設・設備の要望</p> <p>施設では、はまなすスポーツセンターの砂ぼこり解消に向けた床面の改修や利用時間の延長、桜ヶ丘運動公園のテニスコートの床面改修・野球場のライト側防球ネット設置・町民温水プールのギャラリーの狭隘化。設備では、バスケットゴールの自動昇降機の設置について要望が出された。</p> <p>特に、はまなすスポーツセンターは屋内施設で各種種目の利用が可能であるため、夏季の午前利用や割り当ての工夫、照明のLED化などの意見が多かった。</p>

○これからのスポーツ振興

・行政や議会に対しては、各団体の活動や施設の管理の現状などを実際に確認して、競技団体の声を聞いて対応してもらいたい。

・広域的な大会を開催することで交流人口が増え、町内の地場産品や宿泊など消費拡大につながることや、競技大会に限らず旅行とともにスポーツを楽しむ旅ランなどで活性化と経済効果が高まる。また、旅ランの普及にはランニングステーションというロッカーやシャワー等の設備を利用できる施設も必要である。

・体育協会から単位協会に運営補助金があるが、単位協会が補助金返納で運営事務を体育協会が担う制度の創設はできないか。

・健康体操などの普及や町民のスポーツ参加を促進するため、総合体育館で月数回をスポーツジムとして開放してはどうか。

・中学校の部活種目が減少することに心配があるので、指導者の外部化やクラブ化を行い存続してはどうか。その際は指導者が来ることができる夜の時間帯での練習の実施が望ましい。

・テニスなど既に広域化している種目では、硬式・軟式両用の施設整備によって、全道・全国大会やジュニア・ベテラン大会などの誘致が可能であり経済効果も期待できる。硬式野球や水泳も同様に施設整備により、規模が大きな大会の誘致が可能である。

○まとめ

・今回は多くのスポーツ活動している皆様との懇談を通して、活動や施設の現状課題が伝えられ、将来的にはこれまでとは違う新たなスポーツ振興の方策を見出し、実現に向けて町民、行政、議会が協働していかなければならないと感じられた。

・少子高齢化の進む中、創意工夫と連携協力を強くしながら今後のスポーツ振興とまちづくりについて検討を行い、方向性を決定していく必要がある。

・今後、白老町としてスポーツ振興をどのように取り組むべきかをまちづくりとしての実施案で示すべきであり、町民の意見をしっかりと受け止めて、議会の役割をもって、行政に提言していくことが必要であるとの認識が深まる有意義な懇談であった。